

子育て世帯へのお米支援プロジェクト



デジタルツールをフル活用した
システム内製化への挑戦

業務改善部門

品川区企画経営部デジタル推進課

1.子育て世帯へのお米支援プロジェクトの概要

経緯

令和5年度全区民アンケートを実施し分析した結果、
給食のない夏休み中の「食の支援」の必要性が浮き彫りになった。
そこで6月補正予算にて**子育て世帯へのお米支援プロジェクト**の実施が決定。

概要

- ・区内の小中学生1人につきお米を2kg配付。
- ・配付は希望制とし、申請は事前に電子申請サービスにて受付。
- ・申請は7月16日からスタート。
- ・お米の配付は8月5日より区内25か所の児童センターで受取可。



申請～配付までを管理するシステムの内製開発が必要となった

2.プロジェクトの目標

過去の内製開発の課題

気が付くと
プロジェクトが停滞している

システム化の範囲が限定的で
部分最適になっている

追加要件に適応できず、
使いにくいまま塩漬け

講じる対策

1. プロジェクトマネジメントの強化

プロジェクト管理対象(タスク、スケジュール、分担)をドキュメント化。各課で合意し計画的にスケジュールを推進。

2. データを中心とした業務全体のシステム設計

データを起点としたデータベース中心のシステム全体設計。

3. アジャイル開発手法の導入

短納期で内製開発を遂行するため、デジタル推進課がプロトタイプを構築。都度レビューし追加要件に対応。



本プロジェクトは単なるシステムの内製化に留まらず、
「過去の課題を克服し、今後のDXの道筋を示すモデルケース構築」への挑戦！

3.実際の取り組み内容

課題

準備期間の短さ

所管部署と初回の打ち合わせから申請受付開始まで1.5ヶ月・・・
スケジュールの都合上、外部に委託することがきない中、
区民にとって利便性が高く、職員にとっても効率良いシステムの構築が必要となった。



取組

デジタルツールをフル活用！内製化し短期間で構築！！

アジャイル開発手法を採用し、要件定義から申請受付まで1.5ヶ月で準備。



実績

- ①12,000名の申請をスムーズに対応！
- ②区民の利便性と職員の業務効率化を両立！
- ③今後の案件のモデルケースとして庁内でノウハウ共有！



4.全体スケジュール

- アジャイル開発手法を採用し、当課でプロトタイプを作成して、所管部署に提供することで、スケジュールを大幅圧縮。
- 案件キックオフから、わずか1.5ヶ月で申込受付を開始。



6.課題と対策①（RPAの正規化）

課題

電子申請を兄弟姉妹まとめて申請できるようにしたため、データの形式が1人/レコードにならない。そのままでは、データ突合ができなく、職員が手作業で正規化処理する必要があった。

対策

RPAを活用し、自動でデータを正規化する処理(*)を開発！

効果

正規化処理を自動実行できるため、作業時間をわずか10分で完了できた。（作業効率化）
手作業をなくすことで、人的ミスを排除できた。（品質の向上）

*システムで扱いやすくするためにデータを処理すること

電子申請から取得したデータ（csvファイル）

親データA	子データA1	子データA2
親データB	子データB1	
親データC	子データC1	子データC2
	...	子データC5
...		

そのままでは、最大5人/レコード
になってしまう。

RPAによる 自動処理



7,000件の申請を
12,000件のレコードに変換！
たった10分で処理が完了

処理後のデータ

親データA	子データA1
親データA	子データA2
親データB	子データB1
親データC	子データC1
親データC	子データC2
親データC	子データC3
...	

データベースとして1人/レコード
が望ましい状態。

住基データ
との突合



キントーン
kintone に インポート



7.課題と対策②（AIチャットボットの活用&生成AI）

課題

新規事業のため、短期間に電話問い合わせが殺到することを予想された。
所管部署が、チャットボットに必要なFAQの作成に時間を割けない。

対策

電話での問い合わせ件数を減らすため、**AIチャットボット**を導入
FAQの作成には**生成AI（対話型AI）**を活用し、区民からの想定質問を短期間で作成。

効果

2,000回以上のチャットを自動回答できた。



プロンプト

あなたはある区の住民です。以下の # 政策 に思う疑問点や質問を
条件に基づいて50個挙げてください。

政策

・プレス発表の内容（省略）

条件

・区民には子どもがいる家庭、いない家庭があることや障害を抱えた人や
外国人もいることを踏まえて回答をしてください。



出力結果

よくありそうな基本的な質問から

- ・受け取り可能な時間帯はいつからいつまでですか？
- ・兄弟がいる場合は1人ずつ申請する必要がありますか？
- ・受け取りに必要な持ち物がありますか etc...

思いつきづらい質問も

- ・お米アレルギーの子どもへの代替品はありますか
- ・区内に転入してきた家庭への対応はありますか
- ・区外へ滞在（里帰り出産など）している場合の対応はありますか etc...



生成AIの提案をベース
にFAQを作成



チャットボットに登録



2,000回以上のチャットを自動回答。

電話による問い合わせを大幅削減！

8.プロジェクトの成果



システム開発期間



約**1.5**か月で構築！



手作業による事務



226時間削減！
(1.4人月)



問い合わせ対応



30時間削減！
(0.2人月)



システム外部委託費



約**520**万円カット！
(*)単価130万円/人月×4か月で試算



所管課職員

RPAやkintoneなどのデジタルツールをフル活用することで、
区民の利便性と**職員の業務効率化**を両立できました！

9.今後の取り組み

実施済

その1 プロジェクト報告会の実施



- ・プロジェクト報告会を開催し、職員に向けてノウハウを共有。
- ・今後も同様の事例を増やし、継続的な報告会の実施を目指す。

【受講後アンケート(一部抜粋)】

- ・デジタルツールの活用例、活用までの流れを知ることができてイメージしやすかった。
- ・区を取り巻く社会経済状況から今後ますますスピード感をもって施策を展開していかなくてはいいけないため、今回の取組みが成功事例として次につながると良いと感じた。
- ・システム開発等に携わってみたいと思えるような内容でした。モチベーションが高まりました。

実施中

その2 PDCAを回し、次の案件へ活用

プロジェクト実施

PDCAを実施

次の案件で活用

庁内事例を集約し、報告会の拡大やマニュアル化を検討



やってみて出てきた気づきが多い



過去の事例を参考に、次の案件では同じ轍を踏まない！

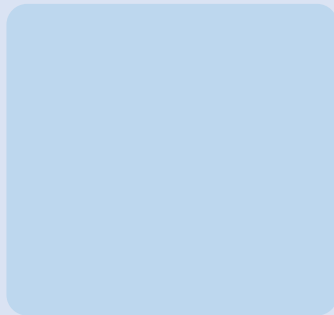


- ・複数課の事例を共有する報告会の規模拡大
- ・DX事例の共有マニュアルを制作
- ・表彰制度を設ける など

各事例での良かった点・反省点が「組織全体の資産」として共有され活用される

計画中

その3 庁内事例の集約・共有



生活保護業務の効率化

目黒区の『**WAISE**』を作り出せ！



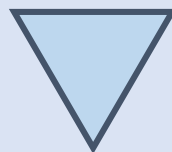
業務改善部門

目黒区健康福祉部生活福祉課

皆さんに質問です



眼鏡の再交付は認められる？



レンズはOK、フレームはNG！



生活福祉課・生活保護業務の現状…

業務量の多さ

自立評価の難しさ

担当しているケースの複雑さ

知識量・専門性・ノウハウ不足



国・都からの支給に関する通知の多さ

生活保護業務の課題とは…

毎年新入職員が配属される所属だが、
専門的な知識が必要



ベテラン職員と若手職員の知識の差が大きい！

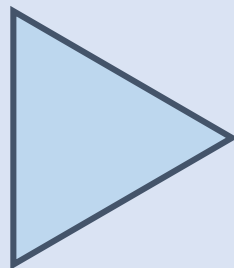


生活保護業務の高度化に向けた取組内容

Before



紙の保護手帳や過去の起案から
手探りで検索して回答



After



AIツールを活用し、
キーワードで簡単に検索！

取組内の工夫した点・特徴的な点



POINT①

課の職員全員を対象に説明会を実施



POINT②

新人からベテラン職員まで活用



POINT③

課の職員全員にヒアリングを実施

取組の成果

業務時間の削減

77.3%

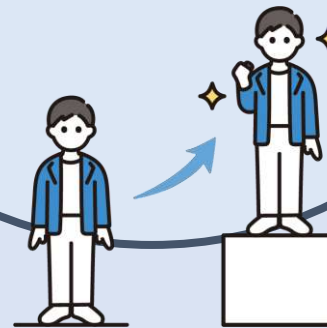
が実感！



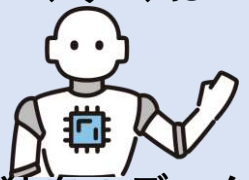
業務精度への影響

80.0%

が好影響！



ゆくゆくは…



目黒区独自のデータも
学習させていきたい！

区民・他区への効果

対応時間の確保



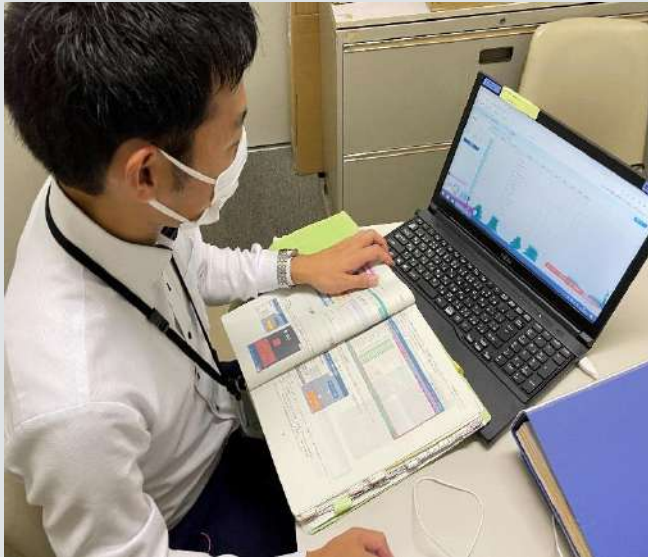
検索時間等の削減で、
区民対応の時間を確保！

横展開が可能



生活保護業務に共通する
課題の解消が可能！

保育所 A I 入所選考システム



やってよかった A I の導入
業務改善には A I の活用を

業務改善部門

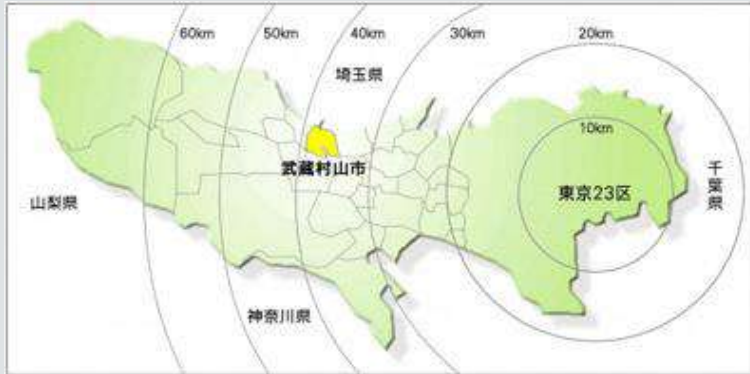
武蔵村山市
子ども家庭部子ども育成課

武蔵村山市の概要



人と人の絆をつむぐ
誰もが活躍できるまち

武蔵村山市



武蔵村山市は人口7万人、総面積は15.32km²(東西5.2km、南北4.65km)で、東京都多摩地域北部に位置し、狭山丘陵を挟んで埼玉県に接しています

就学前児童数は2,700人、認可保育所13施設、小規模保育所1施設、認可外保育所1施設（その他私立幼稚園4園）

武蔵村山市第二期子ども・子育て支援事業計画

家族ぐるみ 地域ぐるみの 子育て環境づくり

～ みんなで子育て、支えあい、うるおいのあるまち武蔵村山市 ～

基本目標 1

子育て家庭の
支援

基本目標 2

母子の健康の
確保と増進

基本目標 3

教育環境の
整備

基本目標 4

子育てを支援
する安全・
安心な生活環境の
整備

基本目標 5

配慮が必要な
子どもと家庭への
取組の推進

業務改善に着手した経緯と背景

保育所入所選考事務の現状



職員が保育所入所選考に多くの労力をかけている

業務改善と市民サービス向上
を図るための対策が必要

業務改善の課題

1. 複雑な保育所入所選考事務



毎年4月1日の保育所入所は申込件数が多く、選考事務が複雑なため、事務が煩雑になり、ミスも起こりやすい

2. 保育所入所選考事務の迅速化



保育所入所選考事務に**107.5時間**を要しており、保育所入所選考事務の**迅速化**が求められている

3. 保育所入所選考結果通知の早期化



保護者から結果通知を早く欲しいとの要望があり、**選考結果通知を早める必要**がある

業務改善課題に対する具体的な取り組み

1. AIの活用



従来の手作業からAIを活用した保育所入所選考事務へシステム化
AIを活用したシステム導入を検討【プロポーザル実施】

2. 独自の選考基準の構築



保育所AI入所選考システムにおける本市独自の選考条件
(入所選考指数、調整指数等)を構築

3. 基幹システムとの互換性



基幹システム (子ども子育て支援システム)



CSVデータ変換



AI選考システム

取り組みにおける苦勞と解決策①

苦勞 した点

従来の入所選考ルールと A I 入所選考ルールとの調整が必要

従来の入所選考「どこの保育園でも可」 → 判定が可能
A I 入所選考「どこの保育園でも可」 → 判定が不可能

解決策

「どこの保育園でも可」をなくし、希望園を第15希望まで増やし、**A I 入所システム**で判定可能にした

取り組みにおける苦勞と解決策②

苦勞 した点

保育所入所選考業務の効率化を実現するため、同点世帯をなくす
4月入所では、求職中の方等 就労状況が同じ世帯が多いため、
同点が多くなり、所得調査等の確認作業に時間がかかる

解決策

入所選考指数を変更し、同点世帯をなくすことで**選考指数が高い
順に判定することが可能**となり、**効率的なシステムを構築した**

取り組みにおける苦勞と解決策③

苦勞

した点

保育所 A I 入所選考システムの結果は正しいのか、業務効率化（時間短縮）できるのかを検証する必要がある

本稼働前に実証実験を行い、検証結果を確認し、正確性を担保した

【検証結果の確認方法】

- 従来の事務作業の見直し（選考ルールの変更等）を実施し、システムを構築
- 従来の保育所入所選考結果と保育所 A I 入所選考システムの結果を比較する実証実験を実施
- 保育所入所選考は**従来と A I の両者の結果が100%一致**
正確性を担保し、令和4年10月からシステムを稼働

解決策

取り組みによって得られた成果と期待される効果

1. 公平公正な保育所入所選考事務の実施



公平
公正

選考根拠等を明確化し、
選考順位確定



公平公正な
選考事務の実現

実証実験



正確性の担保

2. 保育所入所選考事務の迅速化を実現



時短

4月入所選考事務 107.5時間



1時間に縮減

毎月の入所選考事務 37.5時間



30分に縮減

3. 保育所入所選考結果通知の早期化を実現



早期化

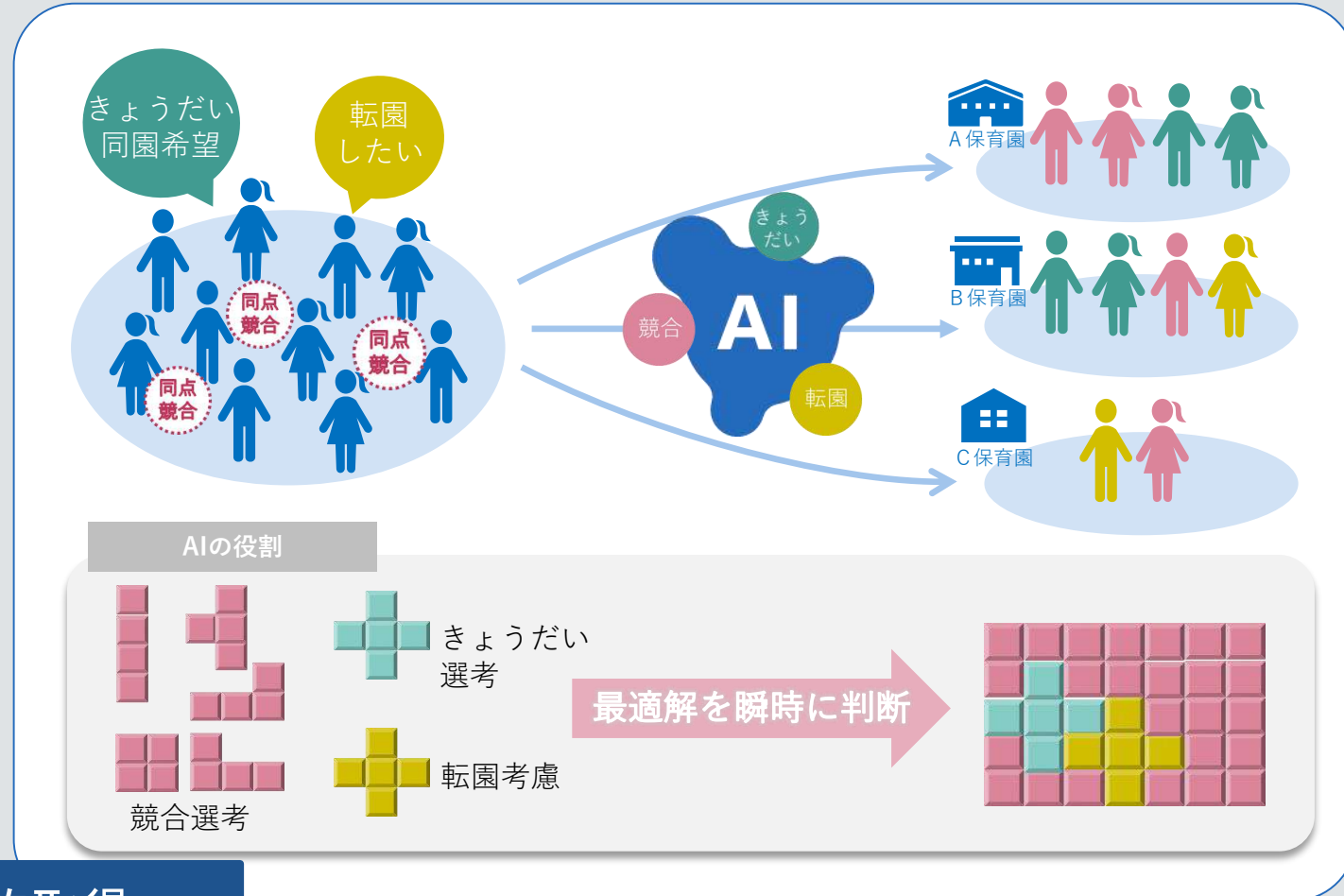
4月入所選考結果通知



2週間以上早めた

保育所 A I 入所選考システムについて

本市の保育所 A I 入所選考システムについては、NECソリューションイノベータ株式会社が開発した「保育園AIマッチングシステム」を導入した。当 A I システムは、人との共同作業（協調型 A I）で業務効率化と市民サービスの向上を実現し、全国45自治体で導入実績がある。本市では、保育所入所選考事務にAIを活用することで大幅な事務負担の軽減を図ることができたことから、引き続き、システムを有効活用し、市民サービスの向上に向けた取り組みを継続していきたい。



特許取得
特許第7460235号



こども家庭センター業務 における情報共有アプリ の構築・運用

実感せよ、DXの力。
IT素人でも、明日を変える
主役に

業務改善部門

板橋区健康生きがい部健康推進課
子ども家庭総合支援センター支援課

INDEX

目次

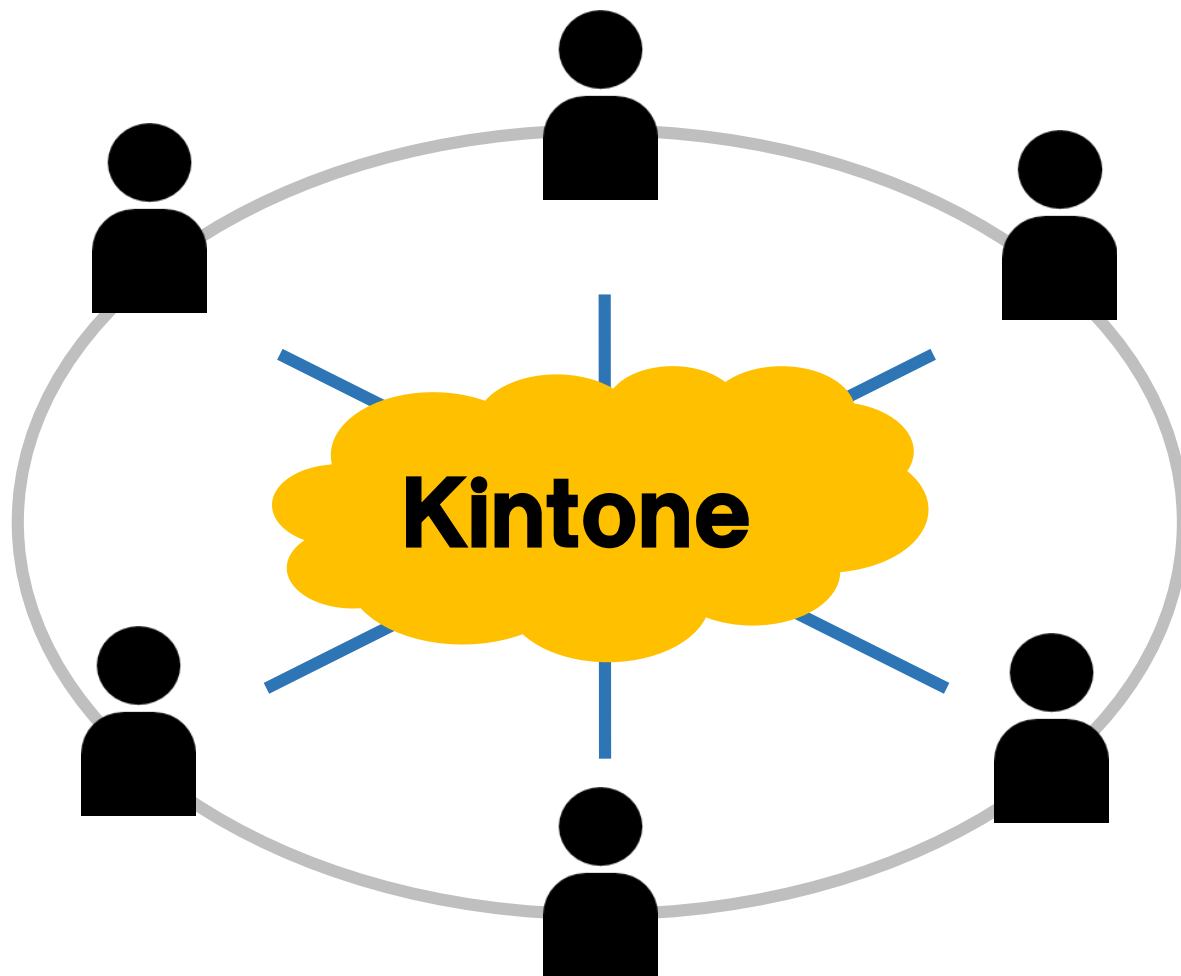
01 取組概要と導入経緯

02 開発と工夫

03 得られた効果

04 今後の展望

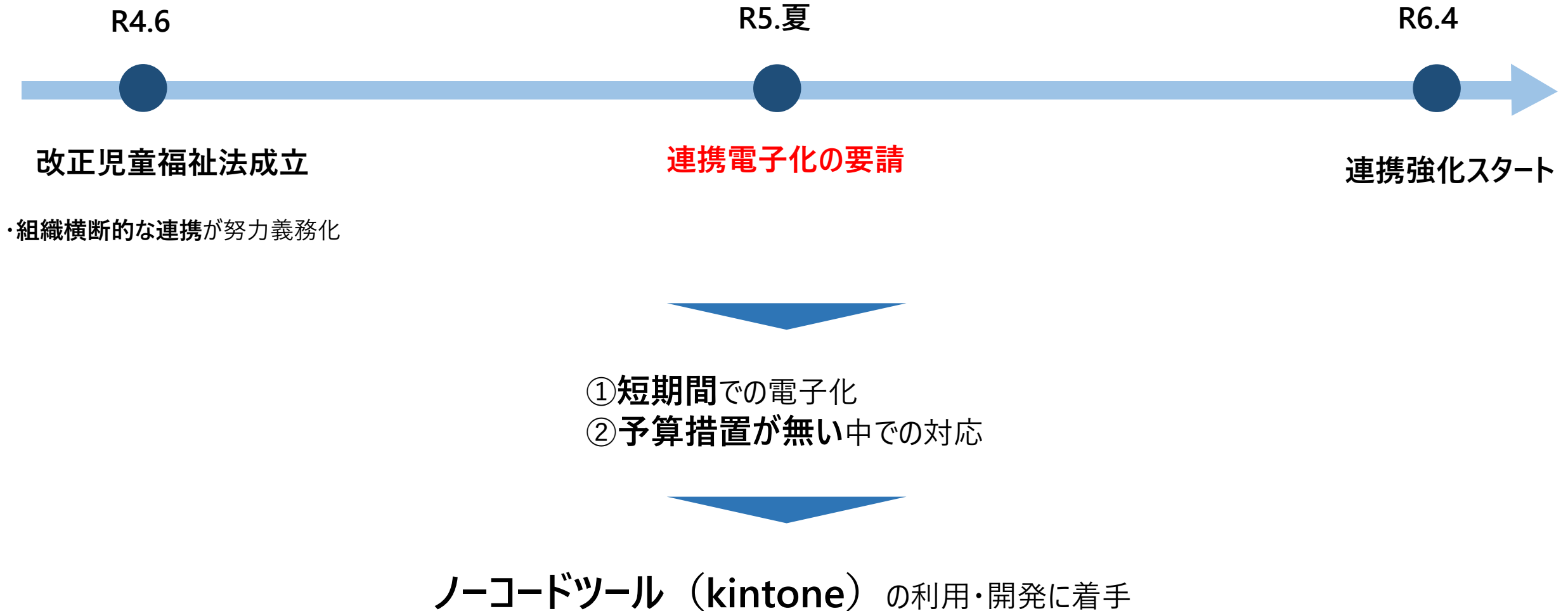
01 取組概要と導入経緯



概要

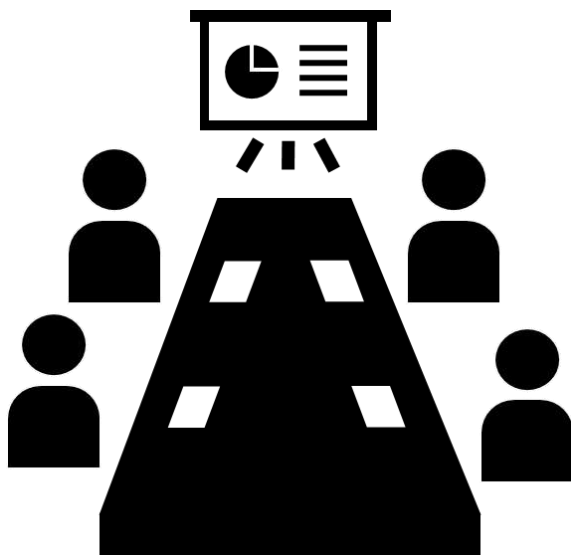
- ・組織横断的な連携を**内製アプリ**で構築
- ・円滑な**情報共有・連携**を実現

01 情報共有アプリの概要と導入経緯



02 開発と工夫 ①柔軟な開発体制

【kintone作業班】



① β 版アプリ作成（課題対応含む）

② 作業班でテスト、課題確認・抽出

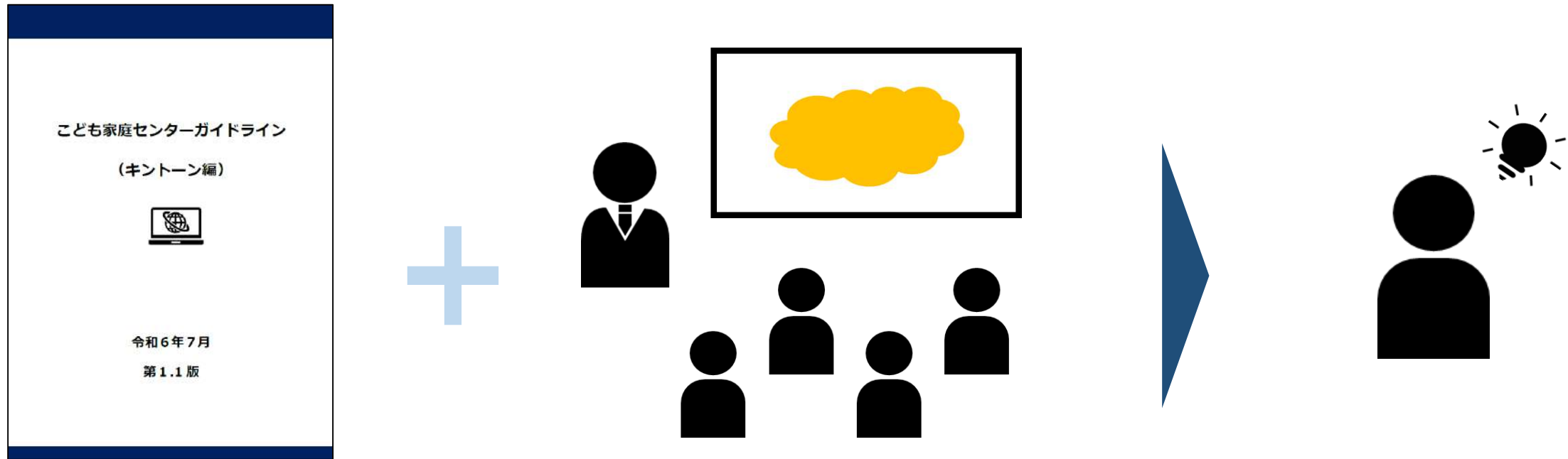
③ アプリ完成・運用開始

④ 適宜バージョンアップ

複数回
実施

迅速な導入を実現（開始から約 **4** か月）

02 開発と工夫 ②現場への普及



マニュアルを作成し、利用者に共有

- ・健康福祉センター（5か所）で **説明会** を開催
- ・説明会後も継続的に質問対応

・「私でも使える」という **納得感**

03 得られた効果 ①迅速な導入の実感

ベンダーに依頼する場合



1年以上かかる可能性



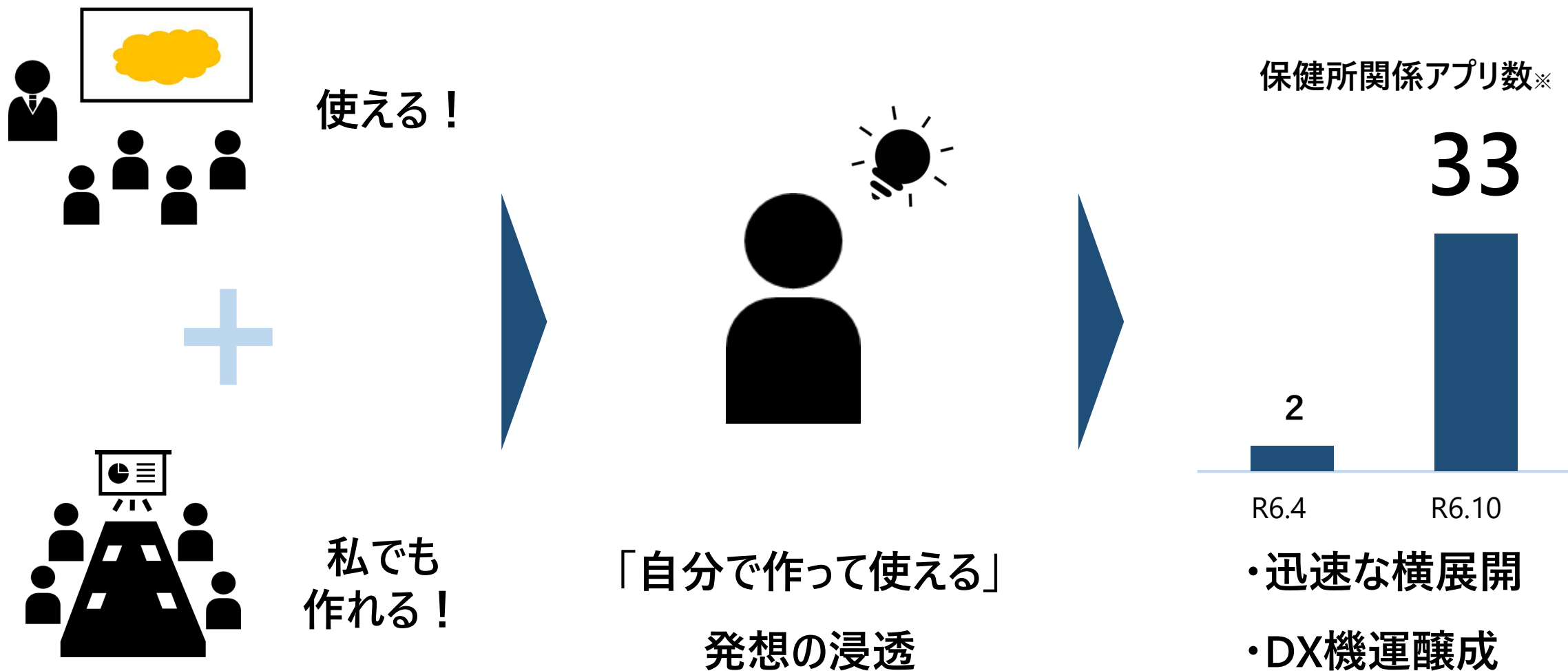
kintoneによる内製



本格検討から約 4 か月で実装

職員自らが迅速に導入できることを実感

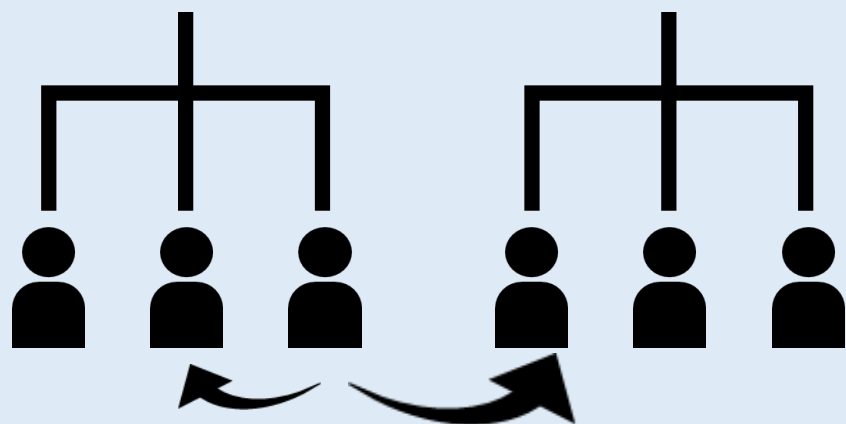
03 得られた効果 ②「できる」実感とDXの機運醸成



※開発中含む

04 今後の展望

部署を跨いだ庁内横展開の充実

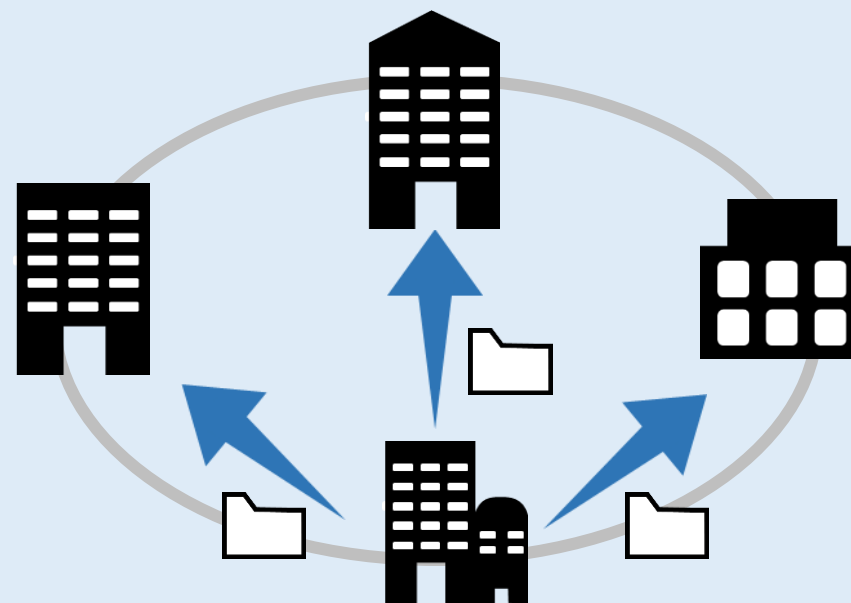


庁内DX推進の加速

さらに



自治体の垣根を越えた横展開



横展開強化による共通課題への対応



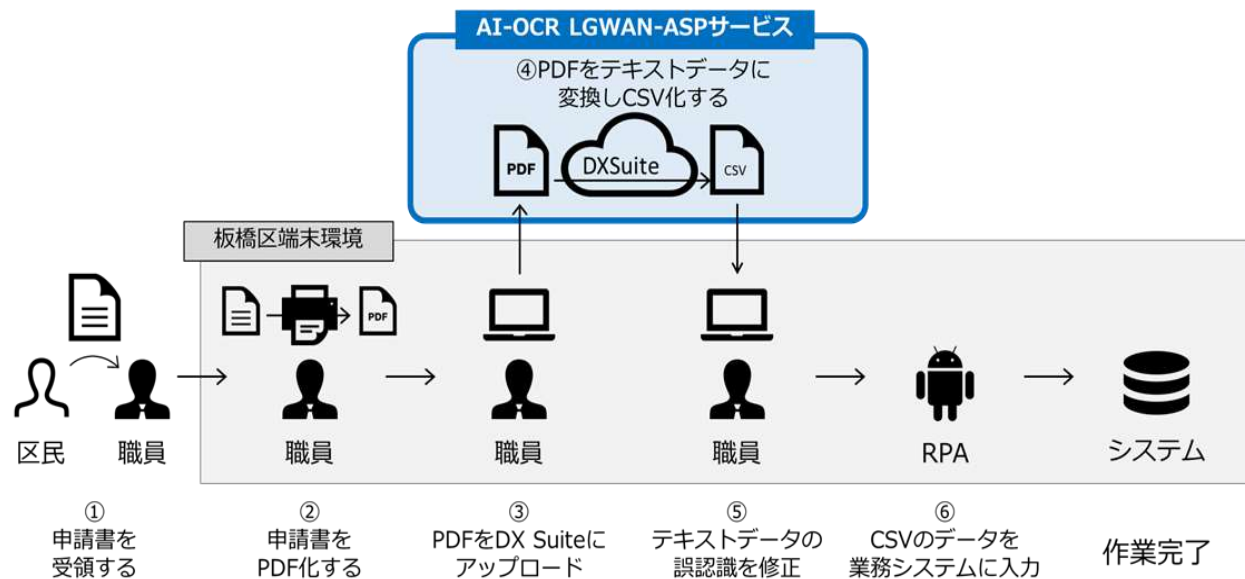
AI-OCR×RPAで創る 板橋New業務改善

AI-OCR×RPA=
自動化のベストプラクティス

業務改善部門
板橋区政策経営部IT推進課

AI-OCRの導入について

紙申請書の業務改善のため、令和5年度にAI-OCRを導入しました。



職員の業務効率化



✓紙帳票のデータ化と自動入力化

✓手入力の負荷軽減によるミス防止

区民サービスの向上



✓事務効率化で、素早く提供可能

✓自動化で生じた時間で質の向上

■ 導入する上での課題

自治体共通の問題

●発生する状況



手作業が残ってしまう



RPAを導入して自動化しよう！



RPAが作れない・動かない



??????????



●原因

AI-OCR



入力項目が合わない

入力が手作業になる

RPA



シナリオが作成できない

実装に時間がかかる

■ 取組①システムの標準化

AI-OCRの最大化への取組

多くの業務でも適用できるモデルが必要



変換マクロと標準シナリオを作成



変換マクロ



- ・ 日付に元号コードを付与
- ・ 銀行口座用データに変換
- ・ スペースを入れて結合



標準シナリオ



- ・ 使用するファイルを選択
- ・ Excelの値を取得
- ・ 値をシステムに入力する

■ 取組②サポートの標準化

AI-OCRの最大化への取組

所管課にモデルを渡すだけでは、上手く導入できない



二人三脚で最適な業務フローを作成💡

IT推進課職員のサポート



- ・ よろず相談DX
- ・ 業務フローの作成
- ・ 申請書の変更

ゴールから逆算して考える



申請



データ化



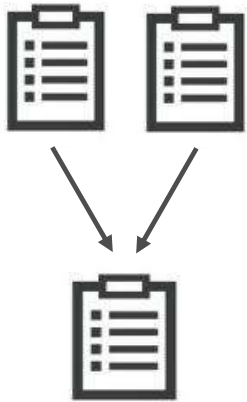
システム入力



入力からフローを検討

導入事例 ～保育サービス課～

①申請書の変更



複数枚を
1枚に

分類作業
を不要に

②マクロで項目を整理



入力項目が足りない

宛名番号を追加

③RPAの作成



標準シナリオを元に作成

●保育施設入所申請入力業務

年間予定申請件数：約5,000件

年間予定作業時間：約1,300時間

令和5年度削減時間

約 585 時間

広報活動について

POINT

横展開を意識し、情報発信に取り組んでいます

庁内向け 広報誌の発行

DX通信 - Vol.17 -
AI-OCRの活用
発行日：2023.12.12
発行部署：IT推進課

AI-OCR 人工知能搭載 DX Suite

紙帳票の「活字文字」「手書き文字」を高精度にデータ化

1. DX-Suite概要

DX-Suiteは、市場シェアNo1のAI-OCRシステムです。紙帳票を高精度にデータ化することで、職員皆さまのシステム入力業務の効率化を実現します。

様々な帳票で使えます	誰でも簡単に操作できます	誤認識が少ない
幅広い業務で様々な業務に対応 地籍作業で帳票の読み取りの精度が非常に高いです。システム導入を介さないため、素早く導入することができます。	直感的な操作ですぐに活用 プログラミング等の難しい設定は必要ありません。マウスとキーボードの操作で、誰でも簡単に利用することができます。	高精度の認識率で業務効率化 活字文字・手書き文字も高精度で認識します。R5年度から導入している関係での認識精度も98%以上です。

R5年度板橋区導入実績
医療費助成金申請(子育て支援課) 保育施設入所申請(保育サービス課) 口産産後ケア(保健衛生課)
狂犬病予防注射費交付申請(保健衛生課) 人口動態調査統計(健康推進課)

事業者 パンフレット掲載

日立システムズの自治体DXソリューション
AI-OCR LGWAN-ASPサービス **HITACHI**
Inspire the Next

導入事例 板橋区様

AI-OCRの導入により、年間約1,480時間の作業時間削減を達成する見込み
全庁的なDX推進体制により、1年間で10課11業務の効率化・省力化を実現

本導入事例のポイント

- AI-OCRの導入により、板橋区全体で年間約1,480時間の作業時間削減を達成する見込み
- 事前にAI-OCR導入の事前調査を行い、得られる効果を踏まえて導入計画を立案
- LGWAN-ASPサービスを利用することで、入札から運用までAI-OCRの導入運用を特約
- 導入開始から1年間で10課11業務の効率化・省力化を実現
今後さらに運用業務範囲を広げていく計画

株式会社 日立システムズ Human x IT

研修・セミナー 実施

RPA研修 ～AI-OCRの活用について～

2024年1月17日(木)

実績について

POINT
1

導入業務数（導入～R6.6月）

10 11
課 業務

POINT
2

業務削減時間数（R5年度）

約 774 時間

さらに



POINT
3

1 | 横展開が簡単に

標準化し横展開しやすくすることにより、他の業務に導入しやすくなりました。

2 | 導入がスムーズに

業務フローを作成することにより、導入開始後のエラーが少なくなりました。

3 | 広報活動が鍵に

成功事例を中心に広報することにより、他課の導入希望が増えました。

今後の展望

この流れを板橋区だけでなく、他自治体など庁内外問わず協力をし、より大きな横展開に取り組みたいと考えています。また、紙申請書の業務改善としてオンライン申請への移行など、さらなる展開をしていきたいです。
これが板橋区を考えるNew業務改善です。



ご清聴ありがとうございました

徴税吏員支援のシステム構築 「未納対策支援 A I」の 開発と導入



人材不足の今、
ベテラン職員のノウハウをAIへ

業務改善部門

練馬区 区民部 収納課

1 AI 開発の背景

税・保険料の滞納整理における主な業務

★滞納者の財産調査

→預貯金や給料、生命保険、自動車、自宅など



では、財産調査先を選定するにはどうするか？

→所得状況・居住地・家族構成・調査履歴・相談記録など

選定作業は1つの案件で平均30分かかっている💡

→まじで、シンドイ作業

税・保険料の滞納整理における課題

- ベテラン人材の不足💡

→人事異動のサイクルが3～4年

- 財産調査の成果にバラつき💡

→職員の習熟度や事案の難易度によって成果が異なる

- 滞納案件は約35,000件あり全件着手困難💡

→マンパワーが限られている

3 取組内容

A I システムの開発目標

●財産調査支援 A I

目標

- ・ 滞納案件ごとに財産調査先をレコメンド（推奨）
- ・ 選定作業の時間削減、新人でもベテランと同等の成果

●難易度別分類支援 A I

目標

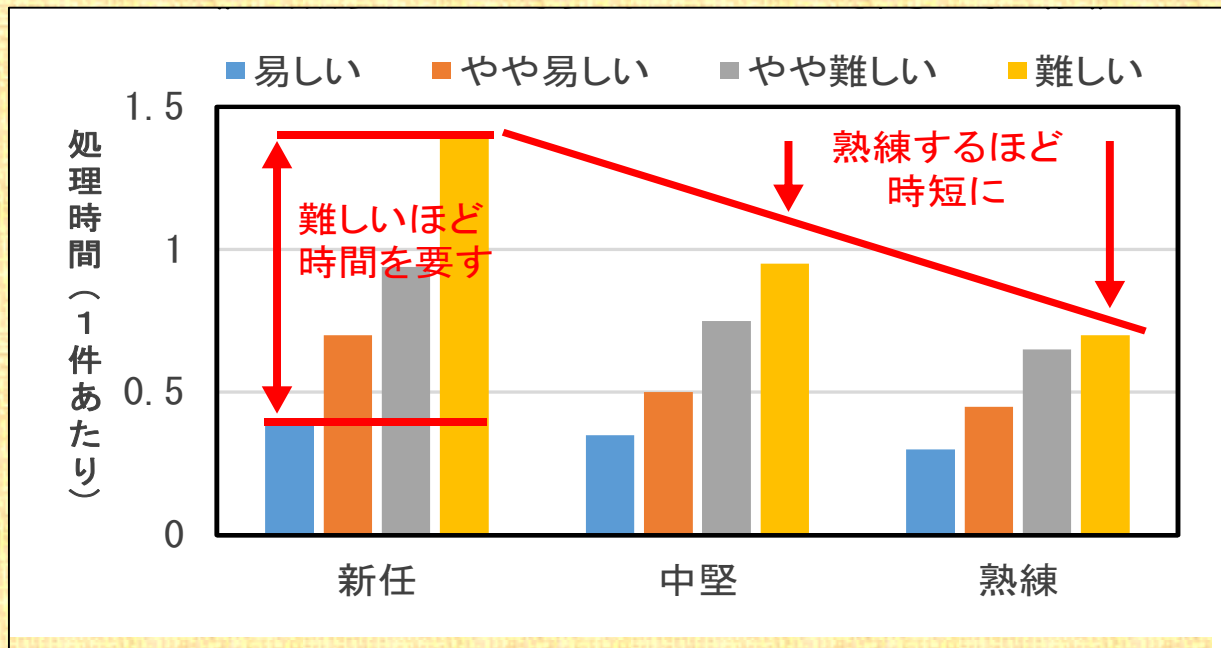
- ・ 職員の習熟度に見合った滞納案件をマッチング
- ・ ミスマッチ防止で最適な人材育成と組織全体の効率アップ

A I 活用による時短のイメージ

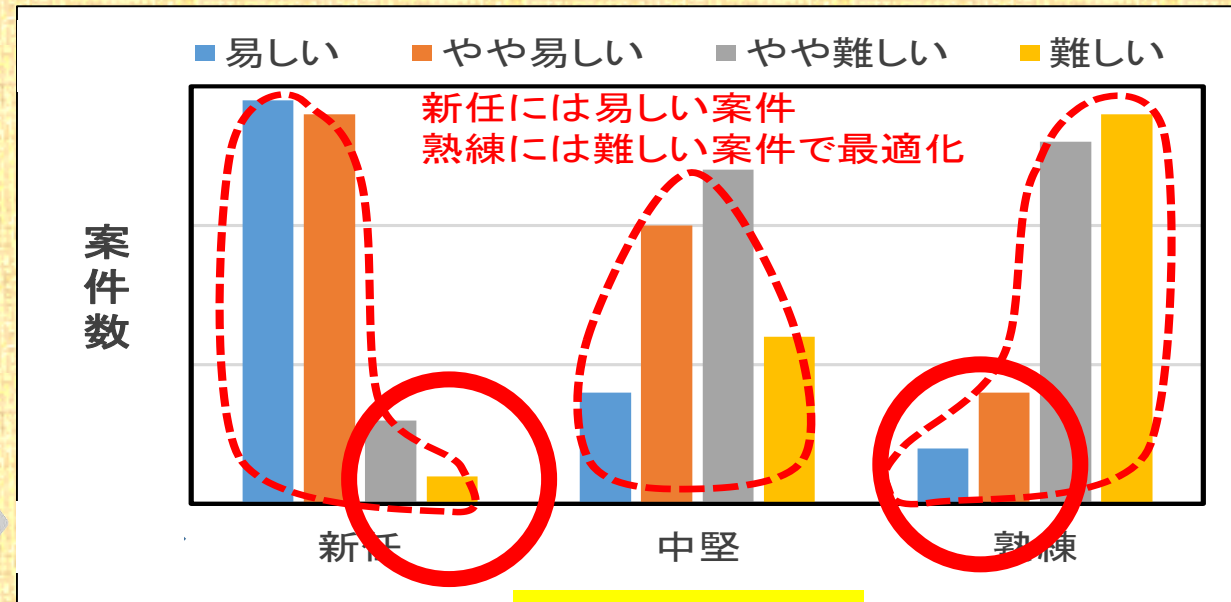


5 難易度別分類支援 A I

【習熟度・難易度別の処理時間のイメージ】



担当案件の最適化



AI活用で

ポイント

6 職員の頑張り

A I 開発での工夫

- 現場からの意見を多く取り入れた

→実効性のあるシステムとするため、操作性・視認性など、
徴収職員（現場）の視点で開発した



- 印刷・発送等の効率化も目指した

→ベンダーと調整しながら工夫を重ね、
印刷・発送業務も約90%カット



7 押しポイント

- ノウハウの継承は全国自治体共通の課題
- 既存のデータのみを使用して汎用性が高い
- A T M（明るく・楽しく・前向きに）

さあ みなさん

未納対策支援 A I を活用しよう！！



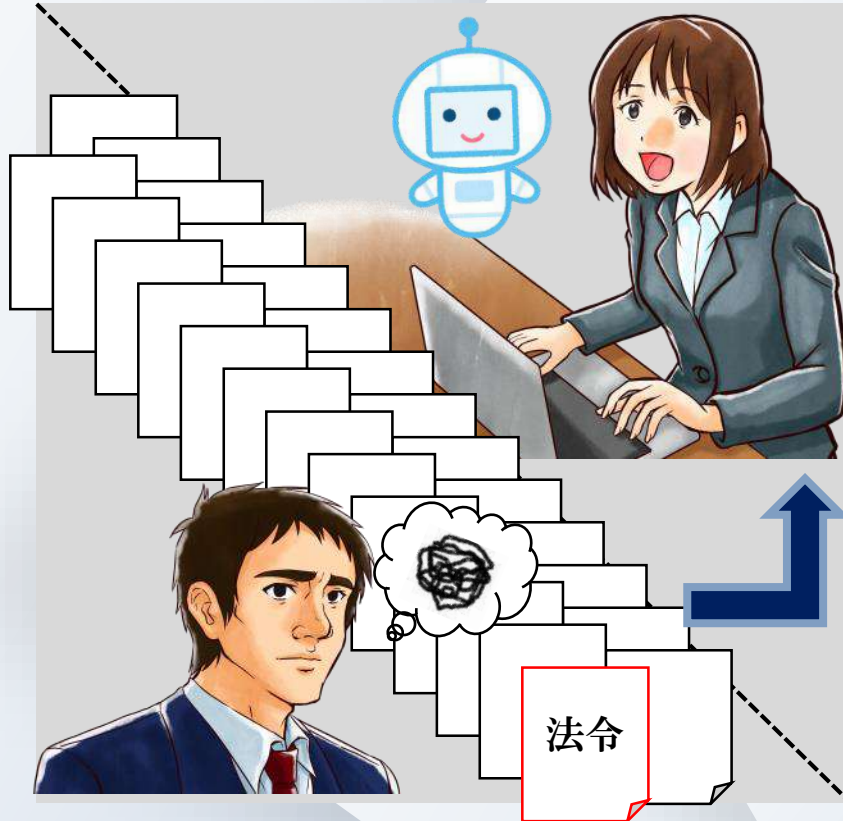
生活保護 A I ヘルプ デスクサービスの導入

必要な法令通知は
👉ここ👈にある！

～よくある質問は、
共有財産～

業務改善部門

狛江市福祉保健部福祉相談課生活支援係





東京都

狛江市 こまえて？

- 面積：6.39km²
- 人口：82,516人（令和6年9月30日時点）
- 職員数：463人（令和6年4月1日時点）
- 新宿から電車で最速21分！
- 理想のオフィスがそこに！～ぜひ、視察を～

みなさんに質問です。



- ①生活保護業務の経験は、ありますか？
- ②これまで経験された業務で、法令や通知を調べるために、多くの時間を費やしてきましたか？

経緯・動機



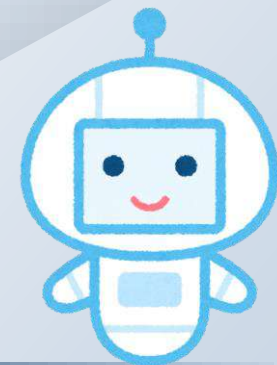
- 生活保護＝最低生活の保障 (法定受託事務)
- 世帯ごとに事情が異なり、実際の生活では、いろいろなことが起きます。
- その度に、法令通知等を調べ、その事案への適用の可否を判断する必要があります。
→ **この時間を効率化**したい！→さらには…

取組内容（知の共有）

- ・法令等をデータ化、検索システムを開発。
 - ・単語検索よりも、A I の力で、**関連性の高い資料を提示**します。
 - ・自治体の**ノウハウを集約**できます。
- 「マニュアル等文書」 「よくある質問」



生活保護AIヘルプデスクサービス



AI検索 例：稼働能力活用と就労収入からの就学費用控除について

① 検索履歴

- 宝くじに当選したが、収入認定されるか
- 電動キックボードの所有は認められるか
- 新規調査のマニュアル
- 親族が亡くなったが、葬儀への交通費を支給してもらえるか
- 布団が使用できなくなった 購入費を支給できるか

■ 索引集 改訂履歴



2024-06-18

2024-07-05

2024-03-08

2024-03-29

2024-07-18

2023-10-01

1

生活保護問答集

第1編 保護の実施要領関係

第8 収入の認定

2 就労に伴う収入以外の収入

【問8-31】不動産の処分等による臨時的収入の取扱い

次の場合どのように収入として認定すべきか、それとも収入として認定しないで法第63条による返還措置をとるべきか。

- 保有を認められない土地を所有していたため、法第63条による返還義務を明示した上で保護を開始すべきであったが、当該指示をせずに保護を開始した。2年後に処分して、収入があった場合
- 水田40aの保有を認めて保護をしていた農家世帯が耕地整理の関係上そのうち10a売却し、収入があった場合(当該地域の平均耕作面積は70～80aである。)
- 被保護世帯に宝くじが当せんした場合のようにまったく予期しない臨時収入があった場合

法令等

QA

ファイル

公開QA

A検索中

1

生活保護業務 消費生活

最終更新日: 2024-02-2

電動キックボードを購入したいと相談があったが、生活保護上保有を容認することができるのか？

電動キックボードを購入したいと相談があったが、生活保護上保有を容認することができるのか？

特定小型原付キックボードと原付扱い電動キックボードは、どちらも原付であるため、総排気量125cc以下のオートバイ及び原動機付自転車と同様に扱います。(R6.1.24 経費照会回答あり)

原付の保有容認は問答集【問3-23】、購入要件は【課第8-23】に示されています。

新規で購入する場合、問答集【問3-23】の要件に該当し、且つ原動機付自転車よりも電動キックボードを購入することが自立助長に実効性があると認められる場合のみ電動キックボードの購入を認めることができます。

ただ、現実的に原動機付自転車よりも電動キックボードが自立助長に実効性がある可能性は低いと思われます。

<参考>

- ・特定小型原付キックボードは、免許の必要はないが、軽自動車税の納税、自賠責保険、任意保険（任意）が必要となってくる。
- ・原付扱いの電動キックボードは、原付免許が必要となってくる。

- ☑ 1 【課第8-23】就労に必要な自転車又は原動機付自転車の購入費
2 (問3-3) バイクの保有

全体印刷



ポイント

新人に、安心を！
ベテランに、発見を！



- 時間の短縮 1人1日1回30分の相談
15名×20日勤務×12か月＝年間1,800時間
- 職員がA Iを育成。検索結果の評価＋利用頻度の増
- データ保存時のフォルダ分け不要。
- Q & A：他自治体と共有も可能 ※ネットにない情報
- 利用団体が増えると、開発者にもインセンティブ。

みんなで賢くなる。みんなで得をする。



今後の展望

- ・利用団体が増えると、利用料負担が軽減！
 - ・生活保護業務以外にも活用！
 - ・外出先で利用できるインターネット版や生成A Iの導入も検討中。根拠法令や通知を明示！
 - ・国整備で、疑義照会や業務運用が効率化！
- ☆DX：現場の知をデジタル(D)で横展開し、制度改善にもつながる変革(X)をもたらす！

職員向け啓発イベント SUMIDA × DX展

0 予算だけど、妥協しない
今すぐできる機運醸成！

業務改善部門

墨田区 企画経営室ICT推進担当

特徴

1

ボトムアップで事業を企画

2

0 予算で実施

3

短期間での実施！（準備期間、わずか2か月半）

4

全庁を巻き込み実施

課題・目的

システムへの苦手意識



IT事業者との接点が希薄



DXを進めるための土台作りを目的に開催

事業概要



ITベンダー展示ブース

➤ 各事業者の製品を紹介・体験

セミナーブース

➤ 職員による講演会の実施

ハンズオンブース

➤ システムを操作しながら学べる

具体的な取組①



出展事業者 **20** 社以上

- ・株式会社ジーシーシー
- ・ジャパンシステム株式会社
- ・株式会社明光商会
- ・ソフトバンク株式会社
- ・株式会社オーイーシー
- ・株式会社137
- ・株式会社セラピア
- ・株式会社ドーン
- ・東京アンテナ工事株式会社
- ・NECフィールディング株式会社
- ・コクヨ株式会社

- ・テクノホライゾン株式会社
- ・株式会社ドーン
- ・エーテンラボ株式会社
- ・株式会社大塚商会
- ・東日本電信電話株式会社（NTT東日本）
- ・SCSK Minoriソリューションズ株式会社
- ・株式会社城南進学研究社
- ・大日本印刷株式会社
- ・株式会社ドコモビジネスソリューションズ
- ・株式会社会議録研究所×株式会社アドバンス
ト・メディア etc



※ 合同で出展されている場合等、一部記載されていない事業者もあります。御了承ください。

具体的な取組②



様々な分野のセミナーを**11**講演実施

所管課職員が講師となり、事例紹介

民間事業者による先進事例紹介



延べ**400名**の職員が参加

具体的な取組③

1

会場の一部電力に
燃料電池車を活用！

2

セミナーの講師を
所管課が実施

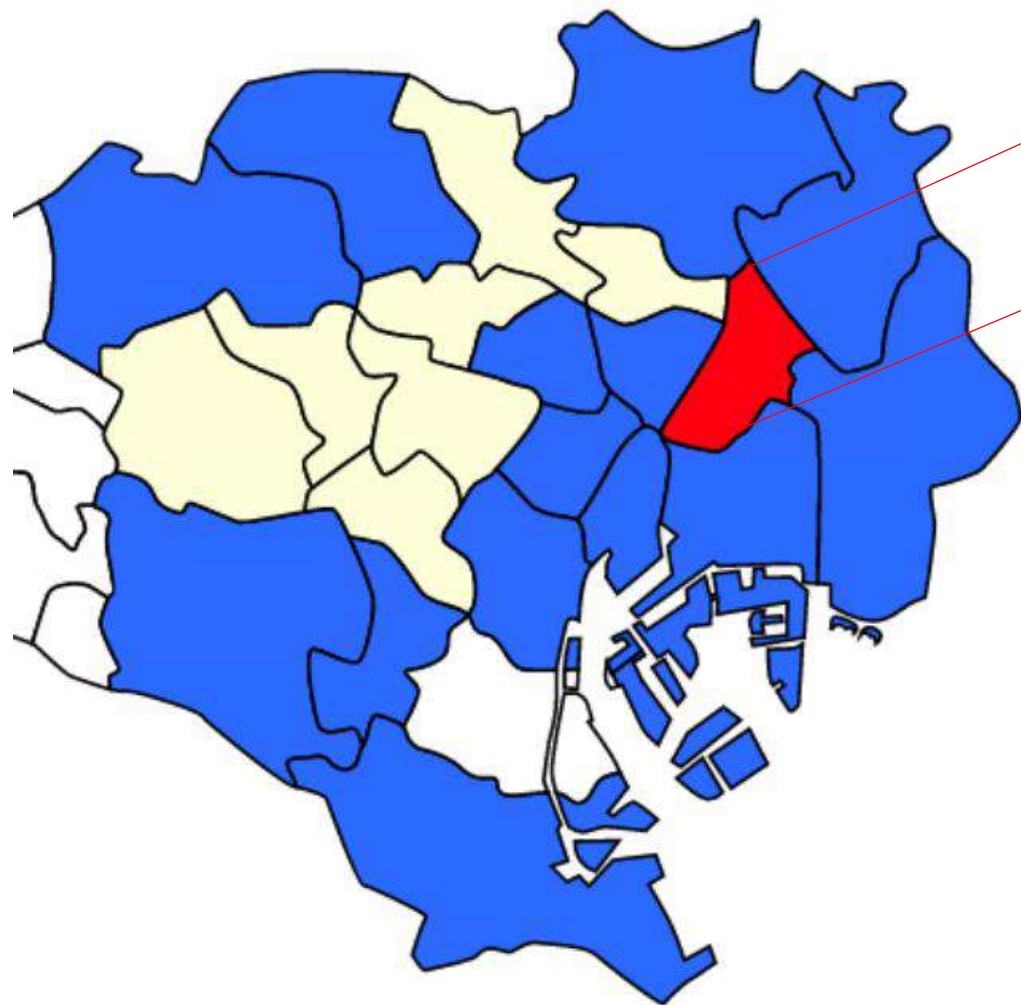
3

効果的な情報発信



全庁参加型の展示会の実現

効果①



墨田区職員
来場者数

490 名

23区視察
団体数

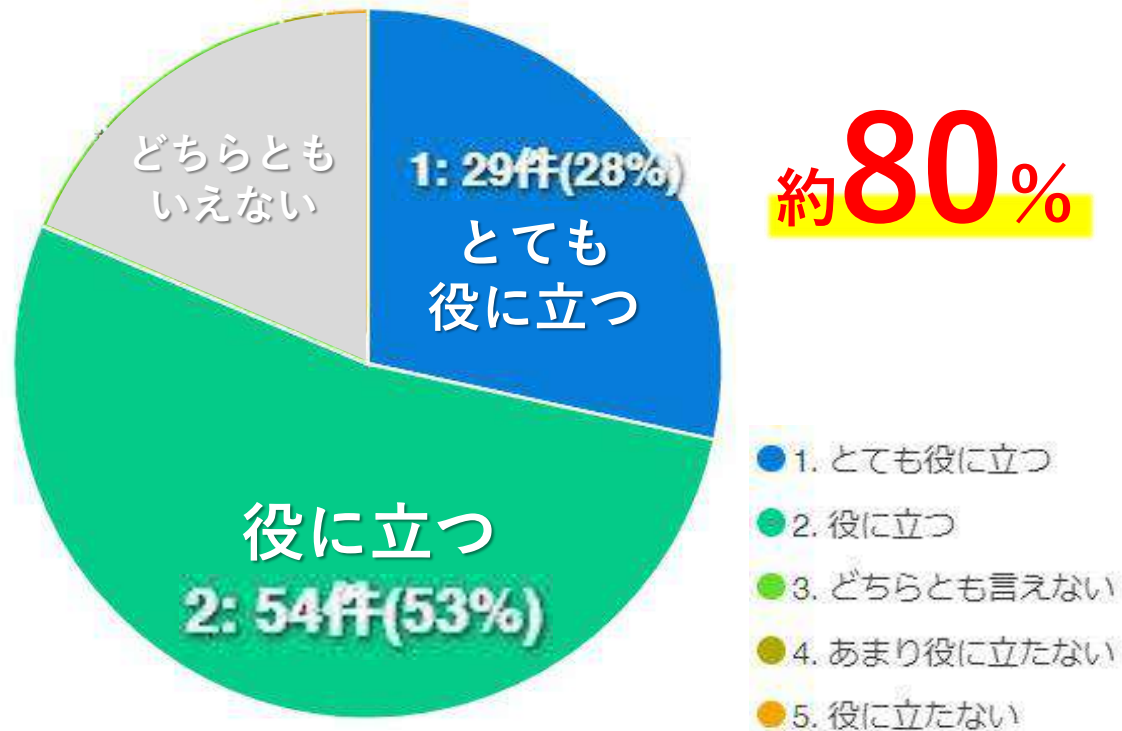
14 区

視察者数

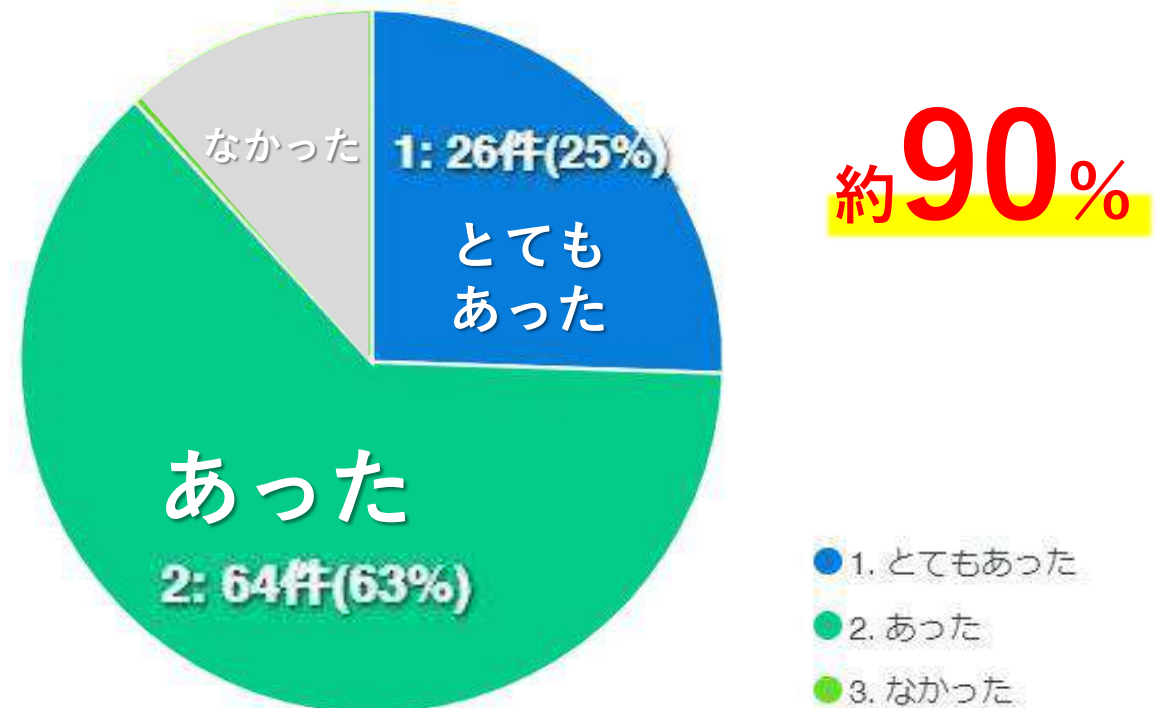
90 名

効果②

SUMIDA × DX展の内容は、
今後の業務に役立てられると思いますか？



SUMIDA × DX展に参加して、
DXに関する意識の変化はありましたか？



効果③ 横展開



1

他自治体からのイベントの相談多数

2

令和6年度に板橋区が展示会を開催

イベント風景 (in板橋区)

展望

【日 時】令和 **6** 年 **12** 月 **24** 日（火） 10：00から16：00まで

前回（R6.2.2開催）のDX展から大幅にパワーアップ✨して開催

墨田区だけにとどまらない情報共有・横展開のイベント

会場規模の
拡大
開催時間の
延長



SUMIDA
DX
AWARDの
開催



出展事業者
を半数以上
リニューアル



一般財団法
人GovTech
東京の協力



他自治体と
交流
できる場の
提供



ハンズオン
ブースの拡
充



